

3. アイサ類3種（ミコアイサ、ウミアイサ、カワアイサ）の動向について

アイサ類といえばミコアイサが人気者ですが、アイサ類はカモ目カモ科の仲間としてガンカモ調査対象となっています。このアイサ類はもともと数が多くなく、更にミコサイサ以外の2種は普通の「池」ではほとんど見られないうえに、特にウミアイサは「地味」ということもあってあまり注目されることはないのですが、今回は注目度今一のアイサ類3種の動向を紹介させていただきます。

グラフ1-3にアイサ類3種のカウント数の推移、グラフ1-4にその確認地点数割合（確認した地点数÷全調査地点数）の推移を示します。グラフ1-3からはカウント数はカワアイサが一番多く、1996年以降の累計ではウミアイサはカワアイサの約15%、ミコサイサはカワアイサの約35%となります。意外かもしれませんが、ウミアイサよりもミコアイサの方が数が多かったのです。一方グラフ1-4からは、1996年以降の累計で見るとカワアイサは平均すると全調査地点の14.7%で確認されているに対して、ウミアイサはその約1/4の3.4%でしか確認されておらず、場所を選ぶ傾向が強いことが見て取れます。ただしこれらの数字はかなりの部分が過去形になりつつあります。カワアイサでは最近までカウント総数、確認地点数割合共に特に大きな変化はないと思われませんが、ウミアイサは確認地点数割合に大きな変化はないものの、2019年ころからカウント数が急に増えてきています（ただし増加が確認されているのは太田川河口1カ所のみ）。一方人気者のミコサイサはかつてはカワアイサと同じくらいの数、カワアイサと同じくらいの地点数（同じ場所ではない）で見られたのに、最近では個体数と確認地点数共に減少傾向が続き、非常に心配な状況になりつつあるように見えます。ミコアイサ減少の明確な原因は特定できていませんが、今後の推移を注視して行く必要があります。

おまけになりますが、全国的なアイサ類3種の動向を見るために環境省のHPにて公開されている歴代の調査データを使って1996年以降のアイサ類3種のカウント数の推移グラフ（グラフ1-5）と、各アイサ類が確認された都道府県数の割合の推移グラフ（グラフ1-6）を作成しました。これを見ると、

- ・アイサ類は意外と数が少ない（全国でも5000羽くらいにしかならない）。
- ・ウミアイサは他の2種に比べると分布が狭い。
- ・ウミアイサのカウント数は2020年くらいから増加している様に見える。遠江エリアでも同様の傾向が見られる。

等々、いろいろなことに気が付きます。遠江エリアの動向と併せて是非ご確認ください。



